

幼年教育科目：幼児と環境

担当教員：隅田学

登録学生数：12名

## 保育者志望学生の虫嫌いを緩和する教育実践

理科教育・隅田学

### 授業の目的

本授業の目的は、幼児は身近な環境や事象にどのようにかかわっていくのか、そのかわりを通してどのように発達していくのか、という点を中心に、具体的な実践事例に基づきながら、領域「環境」のねらい、内容、留意事項等について考えることである。

本授業の到達目標は、以下の通りである。

- 1) 幼稚園教育要領における「環境」の主な内容並びにその構造を理解している。
- 2) 身近な環境に関わり幼児を育む保育の内容と指導上の留意点を理解している。
- 3) 環境に関わる子どもの学びを促進する教材や各種機器の開発や利活用を理解し、保育を構想することができる。
- 4) 家庭や地域社会との協働による子どもの学び支援、小学校と教科等とのつながりを理解している。
- 5) 国内外の保育実践の実態や研究動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。

### 本年度の実施と工夫

幼稚園教育要領「環境」において、身近な環境や事象とのかかわりを考えた際に、幼児にとっても身近な生物としての昆虫がある。地球上の生物種の割合として、昆虫は全生物の60%、全動物種の75%を占める。一方で、保育者志望の大学生は、虫に関する理解が十分ではなく、何よりも虫が苦手な学生が多いのが実情である。そこで、本授業では、①自分が触ることができる虫とできない虫、それらの理由を整理する活動、②虫のスケッチをする活動、③小麦粉粘土で夢の虫を作る活動、④オリジナルの虫物語を作る活動、⑤虫の動きを真似て、表現する活動、⑥地域の専門家による虫に関する特別講義、を講義の中を含めることにより、保育者志望学生の虫に対する嫌悪を緩和することを試みた。

### 実践後の学生の反応

実践後、本授業を通じた自分の変化についてアンケートを行ったところ、回答のあったすべての学生について何かしらの改善が見られ、幼稚園・保育所等で子どもが虫に興味を示し、話しかけてきた場面での保育活動の質的向上が期待できる結果が得られた。自由記述の部分では、以下のような回答が得られた（一部抜粋）。

- ・この講義を受けて印象に残ったことは、貴重なカメムシに触れたことです。私は、もともと虫に触ることに特に抵抗が無かったため、幼少期から様々なカメムシに触ってきましたが、色もきれいで大きいカメムシは触ることがなかったため、印象に残りました。冬の授業であったことから昆虫を外で実際に触るという経験が難しかったため、今後は春や夏など虫の活動が盛んな季節に虫を実際に触る経験をしたいと思います。
- ・昆虫の動きをまねしたり、スケッチを行ったりすることで昆虫の細かなつくりや動きを知ることができた。専門家による講義を聞いた時には知らないことなどたくさんの新しい知識を教えてもらうことができて楽しかった。
- ・「幼児と環境」の講義を受ける前と後で虫への関心が高まったと思う。私は触れる虫が数少なく、気持ち悪いと思ってしまうものが多かった。そんな中で、特に矢野さんの話を聞いて、きれいな虫や魅力的な虫も多くいるということを知ることができた。虫を完全に克服できたというわけではないが、以前よりも虫への抵抗はなくなったように思う。将来幼児と関わっていく中で虫の観察や虫探しも楽しんでみたいと思った。